

ニュースレター

神奈川県臨床細胞学会

第 37 号 令和 5 年 月 日発行

第 39 回神奈川県臨床細胞学会学術集会・第 36 回関東臨床細胞学会学術集会を終えて

横浜市立大学医学部産婦人科主任教授 宮城悦子

去る 2022 年 10 月 16 日にパシフィコ横浜において、現地開催と録画の後日オンデマンド配信のハイブリッド形式で、第 39 回神奈川県臨床細胞学会学術集会・第 36 回関東臨床細胞学会学術集会（10 月 15 日と 16 日の 2 日間開催の第 31 回日本婦人科がん検診学会総会学術講演会との合同開催）を、無事に開催することができました。コロナ禍にもかかわらず、現地開催できたことについては、神奈川県臨床細胞学会会員の皆様の多大なるご支援をいただき実現したことであり、深く感謝申し上げます。

折しも全国的に COVID-19 患者数がかなり減少している時期と重なり、ウィズコロナ・ポストコロナ時代に向けて舵を切った学会となりました。神奈川県臨床細胞学会は、2020 年度と 2021 年度に学術集会が中止となっていただけに、本学会事務局を附属病院病理部に置くことになって初めての現地学術集会が実現し感慨もひとしおでした。結果として、神奈川県・関東臨床細胞学会が 618 人（現地参加 268 人）と、ランチョンセミナーのお弁当が足りなくなるような大盛況となりました。今回、学会のテーマとして「科学的エビデンスと受診者ニーズを備えた細胞診・検診に向かって」というコンセプト掲げました。子宮頸がん検診の国内の受診率の改善、受診勧奨を含む検診精度管理の課題、新しい検査方法としての HPV（ヒトパピローマウイルス）検査の検診への導入、細胞診による検診と多くの診療科にまたがる細胞診断の役割、AI 診断の進歩など、多彩な話題に様々な質疑応答がなされ、現地開催学会の素晴らしさを満喫することができました。

後日多くの会員から、プログラムの充実とご登壇いただいた皆様の素晴らしいご発表内容について多くの賛辞をいただき、様々な苦労も一気に吹き飛んでしまいました。プログラム委員長のセンター病院病理部の稲山嘉明教授には、計画立案から最後の最後まで大変なご尽力をいただき、さらに神奈川県臨床細胞学会会員の皆様の底力と団結力に、この場を借りて改めてお礼を申し上げます。



(パシフィコ横浜入口のポスターと閉会式後の学会スタッフの集合写真)

川本雅司先生が日本臨床細胞学会 学会賞 を受賞しました

本会会員である川本雅司(帝京大学溝口病院 病理診断科)様が、日本臨床細胞学会 学会賞を受賞されました。



ニュースレターは神奈川県臨床細胞学会 広報委員会が作成しています。